

## 0.1 レーダ雨量モジュール

以下に、モジュールの仕様概要と操作手順を示す。

表.1 モジュールの仕様概要

No	項目	内容	
1	DLL 名	McRainfallSyntheticRadar.DLL	
2	概要	合成レーダ雨量の実況、予測値のバイナリ形式のファイルを入力する。	
3	送受信のパターン	受信	なし
		送信	①降雨量 伝送仕様：2次元時系列 セル内変数：SCALOR_RAIN_FALL (mm/hr)
4	接続方法	受信	・接続はできません。
		送信	・要素接続は、2次元時系列で行い、降雨量が出力される。 ・上記以外の接続は、できません。
5	基礎式	なし	
6	備考	・欠測データは、「-9999」で出力される。 ・入力ファイルリストには、入力するファイルのみを入力してください。	
7	サンプルプロジェクト	・レーダ雨量モジュール(1次メッシュ指定).prjdb (基準地域メッシュを1次メッシュコードで指定するサンプル) ・レーダ雨量モジュール(2次メッシュ指定).prjdb (基準地域メッシュを2次メッシュコードで指定するサンプル)	

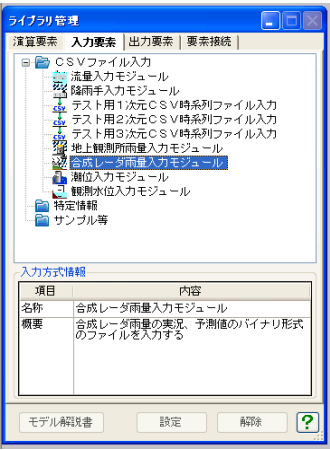
## (1) 降雨量パターンの場合

### 1) モデル接続

モデルの接続方法を、以下に示す。

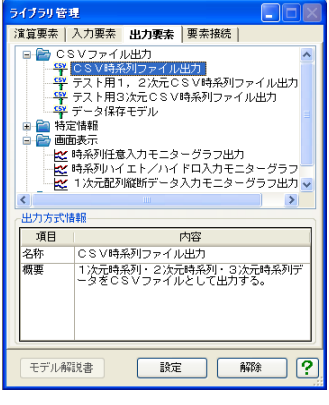
①要素の配置を行い、下図に示すモジュールを設定する。

カテゴリーが入力要素の  
合成レーダ雨量入力モデルを設定




項目	内容
名称	合成レーダ雨量入力モデル
概要	合成レーダ雨量の状況、予測値のバイナリ形式のファイルを入力する

カテゴリーが出力要素の  
CSV時系列ファイル出力モデルを設定



項目	内容
名称	CSV時系列ファイル出力
概要	1次元時系列・2次元時系列・3次元時系列データをCSVファイルとして出力する。



対象モデル

図 1 モデル接続

②要素接続は、以下の通り設定する。

【受信側】

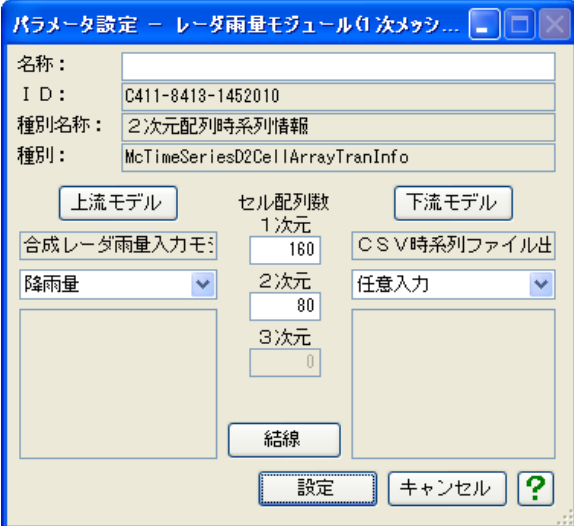
なし

【送信側】

ダブルクリック

対象モデル

2次元時系列  
配列数：1次元 160 (メッシュ数 X)  
          2次元 80 (メッシュ数 Y)  
パターン：降雨量



※本画面は要素接続時にダブルクリック、または  
右クリックメニューから表示を行う。

図 2 要素接続（送信側）

## 2) パラメータ設定画面

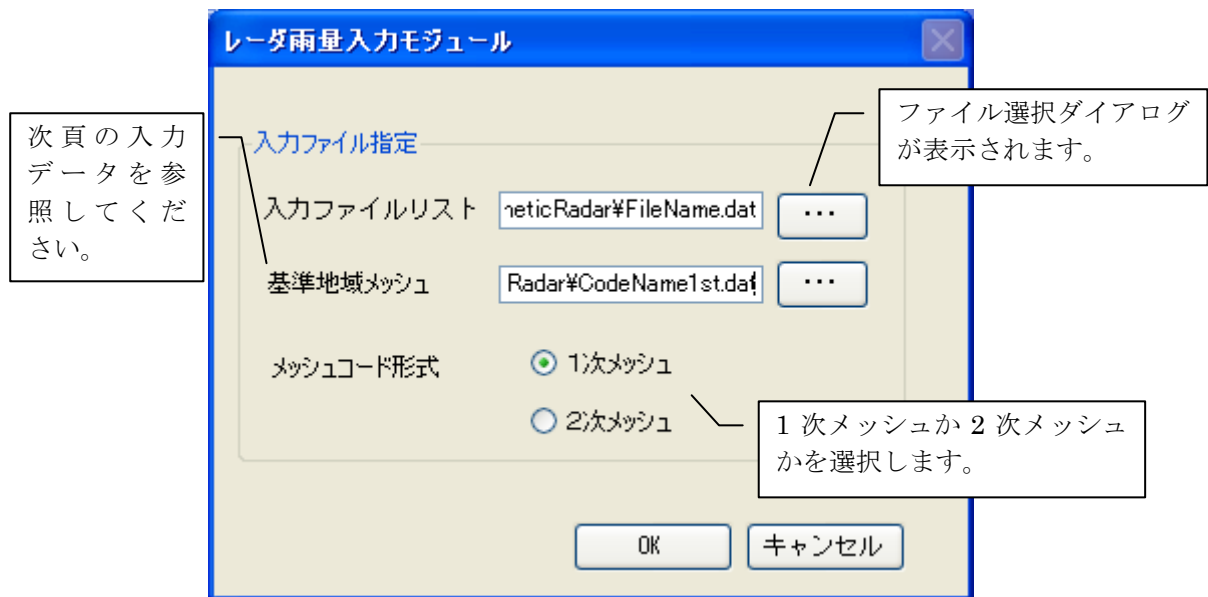


図3 個別 GUI レイアウト図 (レーダ雨量モジュール)

### 3) 入力データ

以下のフォーマットのデータを入力する。

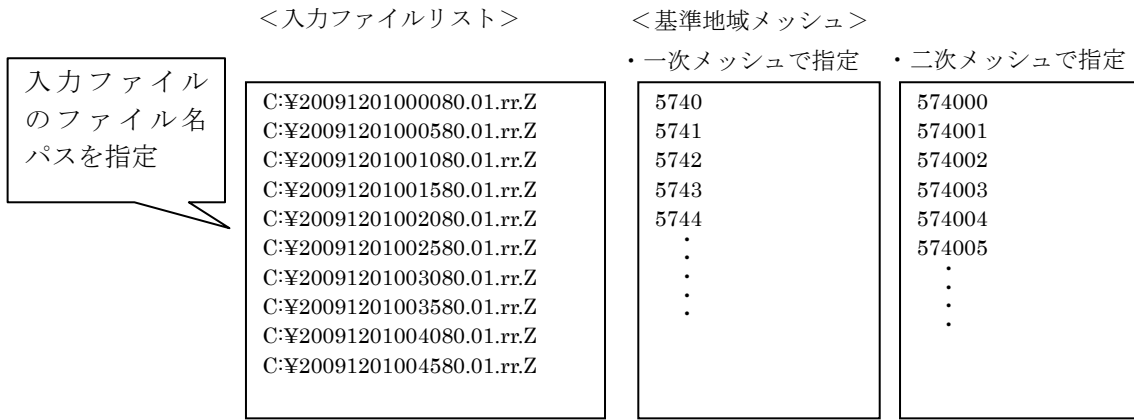


図.4 入力データフォーマット

### 4) 出力データ

2次元時系列の雨量データが出力される。

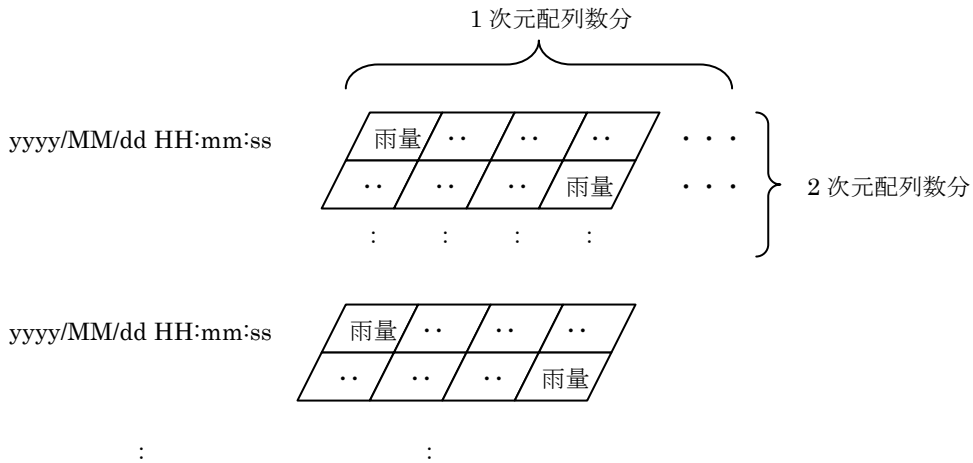


図 5 伝送データイメージ